



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2006. 11 月号

プラネタリウム

つきめぐり

期間：11月4日～12月3日

時間：土日の午前11時と午後2時

(第一土曜日の午後2時の回を除きます)

11月のプラネタリウムは月が主役です。



三日月



半月



月面のクレーター



更待月



新月前の月

11月3日は十三夜のお月見でした。十三夜は「栗名月」とか「豆名月」と呼ばれ、このお月見は日本独自の風習と言われます。満月前の少し欠けた月もいいですね。

月の満ち欠けを表す言葉は古来、十三夜から小望月、十五夜、十六夜（いざよい）立待月、居待月、寝待月、更待月などと続く優雅な響きがあります。

月は望遠鏡で見るとも興味深く、人気があります。クレーター（いん石の衝突坑）が無数に広がる月面南部、海と呼ばれる平らで黒い溶岩にうずめつくされた北部、満月の頃の光条（こうじょう）と呼ばれる光のすじ。地球からは見ることの出来ない月の裏側も見てみたいですね。

新たにお目見えするハイビジョンプロジェクターが映し出すお月さまと月面で楽しんでください。

寄贈品コーナー「南の海で生まれた丹沢」

期間：11月1日（水）～12月10日（日）

丹沢山地にはかつての海底火山の噴出物が1万メートルを超える厚さで積み重なっており、その岩石はグリーン・タフ（緑色凝灰岩）として知られています。丹沢を流れる相模川も酒匂川も河原の石に緑味があった石が多いのは、そのためです。プレートテクトニクスの研究が進み、海洋や火山島の堆積物や溶岩の詳細が明らかになり、現在の火山島の様々な特徴や性質を基にして、過去の海底火山についても、次第に明らかになってきました。

丹沢山地は過去1700万年頃、古伊豆・小笠原弧（大島～八丈島～小笠原へ連なる孤の前身）の南の海の珊瑚礁で囲まれた海底火山として生まれ、フィリピン海プレートに乗って年数cmのスピードで北上し、500万年頃、本州孤に衝突し、沈み込めずに付加したものと考えられています。その証拠として、厚い火山灰の他に、海底に流れた溶岩や水中で破碎された溶岩の角礫岩、熱帯を示す珊瑚礁の化石などが、丹沢各地で知られています。南の海で生まれた火山島はこの丹沢島だけでなく、富士山の北側にある御坂山地、富士川の西側にある巨摩山地も、海底火山として生まれ、丹沢に先駆けて、本州に衝突したものと考えられています。

今回の寄贈品コーナーでは、丹沢がかつての南の海の火山であった証拠を示す資料として、丹沢で見られる海底火山の噴出物と、珊瑚礁を作るサンゴ・石灰藻・大型有孔虫・オウムガイなどの化石を展示します。サンゴ化石については、門田真人氏（神奈川県立生命の星地球博物館・外来研究員）の寄贈によるものです。南の海で生まれた火山島に思いを馳せていただければと思います。



右：熱帯に生息するオウムガイ（アツリア）の仲間の化石 山北町白石沢産

左：早戸川上流に見られる枕状溶岩（枕を積み重ねたような溶岩は、かつての丹沢火山の火口から流れた溶岩流が海中に流れたことを物語る）。

考古学入門講座のお知らせ

今回は日本という枠にとらわれず、井の中の蛙にならないためにも外国に目を向けてみました。世界四大文明の内、三つの文明について、それぞれのご専門の先生から日本のどの時代にあたり、どのような文明であったか、最新情報でお話をして頂きます。参加希望者の方は往復ハガキで申し込んでください。

- ・11月26日（日）エジプト文明
山花京子さん（東海大学講師）
 - ・12月10日（日）中国文明
小柳美樹さん（駒澤大学講師）
 - ・12月17日（日）インダス文明
近藤英夫さん（東海大学教授）
- いずれも13:30開始

*参加希望者は往復ハガキで住所・氏名・電話番号と希望する日（複数日）を記入して申し込んでください。〆切は11月10日（金）。

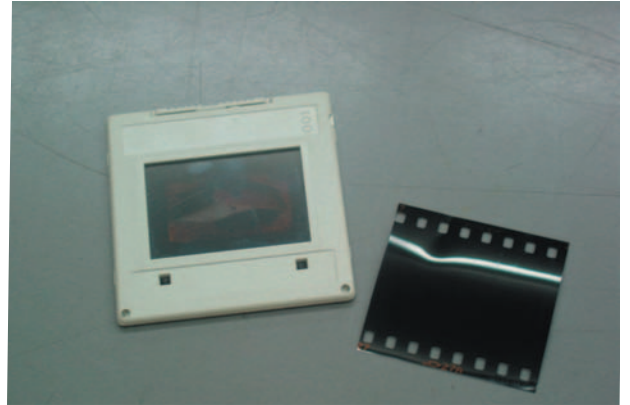
☆もっと元気が出るプラネタリウムへ☆

10月中旬から始めたプラネタリウム室のスライド投影装置、ビデオ、音響装置の一部を交換し、新しくする工事がおわりました。プラネタリウムというと、部屋の真ん中の機械（プラネタリウム）が映し出す「星」ですが、プラネタリウムの投影は他にもたくさんの音響・映像機材が支えあっています。多くは10年から30年の長い間動き続けている少しくたびれ気味の大ベテランたちです。中には最近のデジタル化の波に流され、世の中から姿を消そうとしている機材たちもあります。そんな中この11月から新しいデジタル機材が加わります。これから登場する新鋭は、プラネタリウムにどんな元気をもたらしてくれるのでしょうか。

☆スライドって知ってます？

最近のデジタル化は携帯でもけっこうきれいな写真が撮れるなどめざましい進歩をとげています。フィルムを使う人は減り、フィルムを使う機械もフィルムカメラをはじめスライド映写機などはあまり使われなくなってきました。

プラネタリウムで絵を映し出すメインの機械はスライド映写機です。スライドというのは、写真を大写しにするときに使われるフィルムで、それを写す装置をスライド映写機と言います。これらが世界中で製造をやめてしまい、すでに数年経ってしまいました。



スライドとフィルム

☆プラネタリウムはスライドが大活躍

プラネタリウム室で活躍しているフィルムスライドを投影する装置は大きく分けて5種類。プラネタリウムドーム周辺から全天に映し出す機能を持つ、オールスカイプロジェクタ、たくさんの絵を動きを持たせて映し出すマルチスライドプロジェクタと大画角プロジェクタ。プラネタリウム本体から景色などを写すスカイラインパノラマ。スライドの絵を大きくしたり小さくしたりズームしながら映写位置を動かすXYズーム、ドームのいろいろな方向に単独で映し出せるユニプロと呼ぶ映写機たちです。これらを組み合わせて番組を作ります。

これらのうち、製造中止となり、よく使われていて台数が多く影響が深刻な、オールスカイプロジェクタ、マルチスライドプロジェクタと大画角プロジェクタの三つの機能をデジタル映像機材へ置き換えることを主に行うことにしました。

☆スライドからビデオへ

主な工事はアナログのフィルムからDVDやコンピュータ画面を直接写せるビデオプロジェクタを設置する工事です。

6台のスライド映写機で組んだオールスカイプロジェクタと30台のユニプロは、5台のビデオプロジェクタで置き換えます。5台のスライド映写機で組んだマルチスライドプロジェクタと大画角プロジェクタは、1台のハイビジョンプロジェクタで置き換えます。

現在使用中のスライド機材、制御用システムも、過去に制作した番組の再演などのプラネタリウム番組の継続のため、動く間は継続使用します。

☆広がるプラネタリウムの表現力

これらの工事によって、プラネタリウムとしてできることが広がります。例えば、今年の夏、イブニングミュージアムで上映され、大人気だった「ミラクルダイナソー、恐竜絶滅と地球の奇跡」というハイビジョン映像のような上映も常時可能な能力を持ちます。また、オールスカイビデオでは、プラネタリウムの星ほどきれいではありませんが星を映すことができますので、宇宙旅行で隣の星へ行って、太陽を見る、なんてことができるようになります。

☆11月4日からお目見え

プラネタリウムに新しい仲間が入り、お目見えできるのは、11月4日からです。初めてプラネタリウムに入る仲間です。元気な新鋭たちが力をはっきりとつけてプラネタリウムを支え、新たな宇宙を作ってくれます。どうかお楽しみに。



5台のビデオプロジェクタのうち1台

1水	☆ 寄贈品コーナー「海で生まれた丹沢」寄贈品 ～12月10日	
2木	展示解説ボランティアの会	特研究室
4土	相模川の生い立ちを探る会 ○ 館長の自然講座 ☆ プラネタリウム「月めぐり」～12月3日 ☆ 11月の星空ナビ	湯河原 講堂 プラネ プラネ
5日	○ 水辺の楽校生きもの調べの会 特別展散策会	屋外 鎌倉
9木	石仏を調べる会	特研究室
9木	◎ 星を見る会	屋上
10金	古文書講読会	講堂
11土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
12日	地質調査会 平塚の古代を学ぶ会 ◎ 特別展ギャラリートーク	科学室 特研究室 特展室
15水	裏打ちの会 民俗探訪会	科学室 講堂
16木	展示解説ボランティアの会	特研究室
17金	古文書講読会 天体観察会	講堂 月光天
18土	古代の生活を学ぶ会 天体観察会	科学室 月光天
19日	◎ ろばたばなし	民家
24金	古文書講読会	講堂
25土	平塚の空襲と戦災を記録する会 地域史研究ゼミ 星まつりを調べる会 ○ 体験講座 「プラスチック封入標本づくり」	講堂 講堂 野外 科学室
26日	地質調査会 ◎ プラネタリウムで宇宙を学ぶ会 ○ 考古学入門講座	屋外 プラネ
30木	石仏を調べる会	特研究室

3日	○ あなたも市民調査員！「平塚の どんどやきを調べよう」	特研究室
7木	展示解説ボランティアの会	特研究室
8金	古文書講読会	講堂
9土	◎ 漂着物を拾う会 ☆ プラネタリウム「2007年の天文現 象」～2月4日まで	虹ヶ浜 プラネ
10日	平塚の古代を学ぶ会 地質調査会 ○ 考古学入門講座	特研究室 屋外 講堂
12火	☆ 寄贈品コーナー「民俗」～1月30日	寄贈品
14木	石仏を調べる会	特研究室
15金	古文書講読会	講堂
16土	古代の生活を学ぶ会 星まつりを調べる会 地質調査会	科学室 特研究室 特研究室
17日	◎ ろばたばなし ○ 体験学習「お飾りを作ろう」 ○ 考古学入門講座	民家 科学室 講堂
20水	裏打ちの会 民俗探訪会	科学室 講堂
21木	展示解説ボランティアの会	特研究室
22金	古文書講読会 ◎ 星を見る会	講堂 屋上
23土	平塚の空襲と戦災を記録する会 地域史研究ゼミ	講堂 講堂
31日	天体観察会	屋上

日時：11月9日（木）午前7時半～午前9時

場所：博物館科学教室・屋上

参加：自由（曇天時中止）

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。

日時：11月11日（土）9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由（初めてのの方は往復はがきで申し込むこと）

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：11月19日（日）①13時20分～（2）15時～

場所：展示室民家

○体験講座「プラスチック封入標本作り」

昆虫のプラスチック封入標本を作ります。

日時：11月25日（土）13時30分～4時

場所：科学教室

参加：定員15名（11月10日〆切。電話番号を明記の上、往復はがきで申込。希望者多数の場合、抽選）

○あなたも市民調査員！「平塚のどんどやきを調べよう」

市内のどんどやき行事を手分けして調べてみませんか。講義、観察会、まとめから成る33回連続の講座です。

①12月3日（日）「講義」②1月6日（土）「道祖神めぐり」③2月3日（土）「調査のまとめ」

時間：13時30分～4時

場所：博物館特別講義室または野外（金目地区）

参加：定員20名（3回とも参加できる方。11月10日〆切。住所電話番号氏名を記入し、往復はがきで申込）

<展示とプラネタリウム>

☆秋期特別展「里に降りた星たち」期間：～11月12日

場所：特別展示室 観覧料：無料

ギャラリートーク11月12日（日）15時30分～16時20分

☆寄贈品コーナー「海で生まれた丹沢」

日時：11月1日（水）～12月10日（日）

☆プラネタリウム

◎11月の星空ナビ

11月の天文現象の解説をします。

投影日：11月4日（土）午後2時の回

◎プラネタリウムで宇宙を学ぶ会

「活動する太陽」

日時：11月26日（日）15時30分～16時30分

参加：自由、無料

場所：プラネタリウム

<参加者募集>

◎星を見る会「水星の太陽面通過」

望遠鏡で星空を観察します。

☆：展示、プラネタリウム ○：申込制 ◎自由参加 無印：年間会員制

あなたと博物館 32巻8号 通算359号 発行 平塚市博物館 2400

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.hirahaku.jp/>